

パブコメ出して、 藤沢市の宝、藤沢市文書館の今後に 力を貸してください！

2023. 08.26 小川 千代子

09047231262

藤沢市には、藤沢市文書館があります。1974年設立で、すでに約50年の歴史があります。藤沢市文書館の存在と機能は、全国の文書館関係者にもよく知られています。観光地江の島と同じで、**藤沢市文書館は藤沢市の宝物**というべき存在です。なぜなら、**藤沢市文書館は、藤沢市の公文書を守り、未来に伝える役割を担っています**。藤沢市文書館は、安倍政権下のモリカケサクラのような公文書の不始末を防ぐ、大切な仕事を担っています。この藤沢市文書館が、Our Project マスタープラン「再整備基本計画」素案*では、ほぼ解体予定であることがわかりました。今後、**藤沢市文書館がなくなってしまう？**というのです。

市民の皆さん、利害関係者の皆さん、

今行われているパブコメにあなたの意見を出して、藤沢市文書館の解体消滅を防ぎ、公文書管理とその未来への確実な継承の仕事を確実に継続できるように訴えてください。

*「OUR Project マスタープラン(生活・文化拠点再整備基本計画)(素案)(令和5年8月)」

【パブコメ記入文例案】

- 藤沢市文書館は、全国的にも有名な、日本最初の市町村立の公文書館である。
- 全国に知られた藤沢市文書館の存在は、藤沢市民の誇りであり、宝物だ。
- 藤沢市民として私は、藤沢市の公文書が安倍政権下政府のモリカケサクラ事件のように改ざんや廃棄、不作成によるウソのかたまりになることは許さない。藤沢市文書館はこのような不始末を防ぐとりである。
- 市民の誇りと宝物である藤沢市文書館が、今回の再整備計画のために、その名称や存在が消えることは容認できない。
- 藤沢市の公文書が、藤沢市文書館により、適切な公文書管理が行われ、100年後も、300年後も確実に保存され続けることを望む。こうして保存され続ける公文書は、どんな時でもだれもが差別されることなくアクセスできるよう、適切に維持管理され続けられるべきである。
- そもそも、文書館は行政施設に位置付けられるべきであり、文化施設ではない。
- もし、この素案に沿って、藤沢市文書館の存在やその名称を消滅させるような再整備が実施されるとすれば、これは藤沢市の不見識と無知の象徴となり、藤沢市民にとっては大きな恥となる。全国に知られた基礎自治体の文書館が、文化施設の再整備計画で消え去るとするのは、計画立案者の不見識そのものと言わざるを得ない。

(以上合計 550 字)